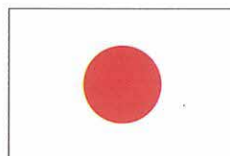


久喜市・ローズバーク協会だより

発行 久喜市・ローズバーク協会
発行日 2024年5月1日



旧葛蒲町より送られた親善の母子馬の前で



市長を表敬訪問 訪問の様子をお伝えしました



中学生親善交流 一週間で本当に仲良くなりました



交流5周年記念植樹の花水木です

ご挨拶

久喜市・ローズバーク協会 会長 平澤 香

久喜市そしてローズバーク市の皆さん、こんにちは。

2023(令和5)年は、旧葛蒲町とローズバーク市が姉妹都市提携を結んで30周年に当たる記念の年でした。お陰様で新型コロナウイルス感染症により中止となっていた交流が再開し、6月には5年ぶりに10名の一般市民がローズバーク市を訪問し、心のこもったおもてなしを受けました。また、7月には本来中学生の時に来日予定だった高校生が、久喜市にやって来ました。

31年目に当たる今年は、「友情と理解」のスローガンのもと、新たな交流の幕開けとしたいと思いますので、市民の皆様には、久喜市のホームページや本紙をご覧いただき、本協会の趣旨にご賛同いただくとともに、活動に参加くださいますようお願い申し上げます。

ご挨拶

久喜市長 梅田 修一

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年からローズバーグ市との直接的な交流ができない状況が続いていましたが、4年ぶりに国際親善交流事業を再開することができたことを、大変嬉しく思います。

2023年6月のローズバーグ市訪問後に、訪問団員の皆様から直接ご報告をいただきましたが、ホストファミリーとの交流の様子を語るいきいきとした表情を拝見し、両市の人々が直接顔を合わせる交流の素晴らしさを改めて実感いたしました。

さて、ローズバーグ市との交流も30年を越え、その間にこの事業に参加した子どもたちが親となり、さらにその子どもたちも交流事業に参加するようになりました。この事業を通じて得たかけがえのない経験や知識が、親から子へ引き継がれていることに深く感銘を受けています。

そして、このように長きにわたり両市の交流を途切れることなく継続できているのは、支え続けてくださる両市のローズバーグ協会の皆様をはじめとする、関係者の皆様のご尽力の賜物であると、深く感謝申し上げます。交流が再開するこの機会に、両市間の絆が一層深まり、友好関係がこれからも長く続くことを心から願っています。

5年ぶりに!

ローズバーグ 訪問友好親善 が叶いました!

2023年 ローズバーグ市親善訪問

2023年6月1日 ▶ 6月8日

第22回ローズバーグ友好親善訪問団の皆さんが帰国後にまとめた報告書の中から、いくつかを抜粋・省略してお知らせさせていただきます。

● 5年ぶりの訪問親善を終えて

訪問団長 平澤 香

6月1日 ユージーン空港でジャネット会長をはじめとしたローズバーグ協会の皆様の熱烈な歓迎を受けた後、アンブクア・コミュニティ・カレッジに向かい、ホストファミリーと対面しました。そこで驚いたのは広島原爆で生き残った銀杏の苗木が植樹されていたのです。

コロナ禍で交流そのものが中断したにもかかわらず、温かく訪問を受け入れていただき、なおかつ世界平和を考える共通の時間を設定していただいたことに対しても、感謝の気持ちでいっぱいでした。歓迎会では30周年記念のスライドを見せていただきました。スライドに登場する人だけでなく、この交流を作り上げた多くの人達の息吹が感じられ、歴史の重みを再確認することが出来ました。



原爆の木の植樹

● 姉妹都市ローズバーグを訪ねて

岡村 宗二

異なる土地での人々の社会生活やその歴史を知ることは楽しい。以前から米国西海岸の田舎に興味があったので、ローズバーグ親善訪問に参加した。当地は6月の割にはほぼ快晴で湿度も低く快適であった。

ポートランドは全米でも、超人気のようにあるが、このローズバーグもオレゴンの魅力を代表する地方小都市に違いない。かつての幌馬車の代わりに郊外の高速ハイウェイを走る超大型トラックによる現代輸送網がある。広大な土地と自然美の中に自動車を駆使する現代人が生活している感がある。

私たちは市警察本部を訪れた。気さくなお巡りさんたちで、お土産までいただいた。一日当たりの緊急要請件数を尋ねたが、「滅多にない。」という返答も予想したが、やはり相当にあるようだ。最も深刻な災害は森林火災と思われる。

互いの理解は実際の交流なくしてあり得ない。若い人たちの相互理解は特に重要で、必ず自己の発見と実現に繋がる。個が「よく生きる」ために、「共感を誘う交流が大切」という思いがある。

● 特別な時間 ❀❀

鈴木 一美

とうとうその日がやってきました。2023年6月1日、私は空港で「行ってきます」と訪問団の一人としてローズバーグに向かいました。たくさんの期待と不安が交互に押し寄せ中での出発でした。

私を受け入れてくださったホストファミリーはシャーロットさんです。彼女は一度日本にいらしていますが、その時のおもてなしがとても印象深かったようで、何度もその話をしてくれました。彼女のサービス精神あふれる厚遇は私の想像をはるかに超えるものでした。自分の受けた喜びを今度は日本からのゲストに返す…このおもてなしの心を繋いでいくことこそが交流が長年続いてきた理由なのだ、自分がそこに身を置くことではっきりとわかりました。



● ローズバーグ協会の方々と私 ❀❀

川本 佐奈恵

オレゴン州、ユージーンの空港に着くと、見慣れた顔の人々が大きく手を広げて迎え入れてくれます。この光景を目にするのは、これで何回目になるのだろうか？そう考えながらハグと笑顔に包まれていました。ローズバーグ協会に関わらせていただき20数年が経ちました。久喜市菖蒲町で生まれ育ち、大人になってからはその地を離れたものの、またこうして交わらせていただけることを嬉しく思います。30年も続いている姉妹都市交流。何といたってもその鍵となるのは、「人々」の情熱と心です。幼少の私を育ててくれた久喜市菖蒲町、その土地と人々は今もなお人間としての私の成長を手助けしてくれています。この国際交流に携わっている皆様、お一人おひとりに感謝する旅となりました。今後もさらに発展していくことを願ってやみません。



久喜市中学生国際親善交流も再開しました!

令和5年度久喜市中学生国際親善交流実行委員会 会長 福沢 仁恵

本事業は、久喜市内の中学生とアメリカ合衆国オレゴン州ローズバーグ市の中学生が交流を深め、相互理解を促進することを目的として、1987年より、ホームステイの派遣・受入を行っている取組です。

しかしながら、しばらくの間、新型コロナウイルスの影響によりオンラインによる交流が続いていましたが、この度、5年ぶりに久喜市での受入から再開することができました。

今年、ローズバーグから来た10名の生徒は、中学生の時に、来日することができなかった高校生でした。最後の日に一人ひとりが話したメッセージは、夢がかなったことへの喜びと感謝に満ち溢れていました。

本事業を通じて、ローズバーグの生徒たち、ホームステイを受け入れた生徒たちは、国際交流の楽しさや大切さを改めて実感することができたと思います。

本事業を経験した子どもたちには、この経験をきっかけに、世界に羽ばたき、やがては久喜市に恩返しをしてくれることを願っています。最後になりましたが、本事業に御協力いただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

伝え合いの大切さ

斉藤 颯大

僕の家に来てくれたJackから学んだ事があります。それは、Jackと会話をするたびに1つ1つ考え話すことができるようになりました。僕は普段無意識に話し、あれこれ伝えていました。それが伝わっているのは当たり前だからと考えていました。しかし、何日かJackと過ごしているうちにJackには伝わっているか確認したいと思うようになりました。そのうちに、1回1回相手の表情を見ながら確認して話すことができるようになりました。Jackと過ごした日々から、相手の表情を見て話をする事は相手を知る事なのだ気がつきました。これからは、話す時を大事にしていきたい。そして、次年度までにもっと勉強してローズバークへ行き、話をしたい。



ありがとうJack

斉藤 妙子

初めの頃は不安でした。でも、ローズバークから来る子「Jack」もその親も同じように不安はある。まずは、互いを知る事・好きになる事が大切だと考えました。初日「UNO」を家族皆で行いました。すると言葉の壁はあれど思いが伝わりあい、あっという間に仲良くなれました。今回、国は違えど相手を尊重し理解し合える素晴らしい時を頂きました。私は、子供たちを通してこのような経験ができて幸せに思いました。これからも多くの人にこの想いを伝えて欲しい。私は8日間を経てJackを自分の子供の様に可愛く思える様になりました。参加させて頂きありがとうございました。

ワンジクとの一週間

内田 宥子

私は、ワンジクと過ごした1週間でたくさんの思い出を作ることができました。その中でも特に心に残っていることが2つあります。1つ目は、ホームステイ初日のワンジクに初めて会った日のことです。最初はすごく緊張して、うまく話せなかったけど、ワンジクが優しく話しかけてくれて、嬉しかったです。

2つ目は、提燈祭りに行ったことです。ワンジクと私の友達と浴衣を着て、お祭りに行きました。屋台で何かを買う時も、英語で話すのが難しく、ジェスチャーを使って話しました。翻訳を使ったときもあったけれど、翻訳を使わないでスラスラ話せるようになりたいと思いました。一週間では足りないくらい、楽しかったです。



また会う約束

内田 郁世

初めてホームステイを受け入れることになり、心地よく日本の生活を楽しんでもらえるか、意思疎通ができるか心配でしたが、聡明で礼儀正しいワンジクは、日本の文化に積極的に挑戦するとても素敵な女の子で、すぐに私たち家族は彼女のことを好きになりました。

言葉はきちんと通じなくても、相手を思いやり興味をもって話しかければ、通じ合えること、また自分で考えて行動する自立した彼女からとてもいい刺激を受けました。あっという間の時間、もっといろいろな体験をともにしたかったのですが、また日本に絶対来ると言ってくれたことがとても嬉しく、次に会える時に備え、私も英語を頑張ろうと思いました。

お知らせ

2024年度の交流の日程が決まりました!

中学生

訪問
親善

7月22日 ▶ 8月1日

一般

受入
親善

10月3日 ▶ 10月11日

詳しくは市ホームページ等でご確認ください

編集後記

2019年に訪問団をお迎えしてのち途絶えていた交流が再開しました。嬉しい限りです。

2023年度の一般の方の交流(訪問)・中学生の交流(受入)の一端を紹介させていただきました。

この広報をお読みになりましたご感想やご意見をお寄せいただければ幸いです。

編集責任者 山田 銀子・今村 暢子